

SY7-1

小児保健におけるオンライン相談の活用—産婦人科・小児科オンラインの事例から—

橋本 直也

株式会社 Kids Public

我が国の児童虐待の報告数は直近 10 年間で約 3 倍、妊産婦の死亡原因の一位が自殺となり、背景に産後うつも指摘されています。この国の妊娠、出産、子育てにおいて孤立している人は想像以上に多くいらっしゃいます。

弊社は、産婦人科医、小児科医、助産師にスマートフォンから相談できるオンライン相談「産婦人科オンライン」「小児科オンライン」を運営しています。「産婦人科オンライン」「小児科オンライン」のコンセプトは、「手のひらに、安心を。どこに住んでいても。」です。医療機関で待っているだけでは届かなかった孤立、不安にオンライン相談であれば寄り添うことができると事業者として感じています。現在、自治体の住民サービスや企業の福利厚生、付帯サービスなどとして展開しており、相談者は全員無料で利用しています。50 を超える市区町村を含め、100 以上の法人に導入済みです。参画する産婦人科医、小児科医、助産師は 190 名を超えています。相談者は、スマートフォンのテレビ電話やチャット、音声電話、専用フォームを通して相談が可能です。病院に行くべきかの判断から、普段のお子さんの健康、育児に関する悩みなど幅広く相談をお受けしています。事業は 2016 年 5 月より開始しており、累積で 10 万件以上の相談に対応してきました。今回、これまでの 7 年間の本事業の実績をまとめてご紹介し、小児保健におけるオンライン相談の活用について皆様にお伝えできればと思います。